新天地~紡ぐのは絆の物語~

はやたか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新天地~ 紡ぐのは絆の物語~

【Ｎコード】

Ｎ８３８５Ｙ

【作者名】

はやたか

【あらすじ】

決して有名ではないがハンターとしての実力なら誰もが認める女性ミリア。ドンドルマから離れた新興の村であるラント村で彼女が織り成す仲間と友情の物語です。

慣れないため色々グダグダ感は出るかと思いますがよろしくお願いします。

1話（前書き）

駄文になりますがよろしくお願いします

1話

大陸最大と言われる町ドンドルマ。そこは様々な人達が集まる交易、商売の要所とも言われる場所である。その町の中心部にある建物、通称「酒場」と呼ばれる場所では様々な人が一日の疲れを癒したりしていたがその中でも圧倒的な数を占めているのはハンター達であった。クエストに成功して報酬金で騒ぐ者、失敗して慰めあい次への意欲を燃やすものと様々だ。そんな中決して目立つことはない人物がいた。彼女の名前はミリア・ホーキンス、ハンターである。その身に纏う防具は全身は銀色だがところどころに雌火竜【リオレイア】の素材を使った防具レイアシリーズであり、横には彼女の愛用している太刀【飛竜刀　朱】が立てかけてある。彼女――ミリアは誰と騒ぐでもなく、酒場の端っこの席で一人飲んでいたがそんなミリアに近づく人影があった。豪華な服に身をつつみ、耳が普通の人のそれと比べて極端に垂れ下がっている。彼女は竜人と呼ばれる種族で酒場内ではメイと呼ばれている人物である。

「あら、今日も一人？」

「私がいつも一人で狩りに出ているのは知っているでしょう？」

「そうね・・・」

いつもならはっきりと物事を言うメイには珍しく言いよどんだことを怪訝に思ったミリアは首を傾げる。すると全く予想だにしない言葉が飛び込んできた。

「ねぇミリア。貴方、拠点を変えてみる気はない？」

一瞬何を言われたのかわからなかったミリアだが言葉の意味がわかると更に首を傾げた

「なぜいきなりそんな話に？と言うか、拠点を変えるって・・・今時大抵の町や村にはハンターがいるでしょう？」

ミリアの言うとおり、余程の事がない限りギルドは村や町に対して最低一人の常駐ハンターをつけることを原則としている。これは単

にハンターと言う名を広めるためだけではなく町や村の安全を図ろうと言う目的もある。だからこそミリアはメイの言うことに疑問をもったのだ

「実はねぇ・・・知り合いが新しく村を興すらしくて色々な人を集めているんだけどハンターだけが中々集まらないらしいのよ。なぜかはわかるでしょう？」

「まぁね」

一概には言えないがハンターは通常、報酬金のいい依頼を受けようとする。それは当然のことと言えるであろう。彼等も生活がかかっているのだからわざわざ遠い狩場まで出かけて薬草採取等の地味な仕事で帰ってきたくはないし、当然大型モンスターを討伐したときより報酬金は少ない。新興の村と言うのであればいきなりモンスターの脅威に晒される等ということはまずない。と言うことはハンターに回ってくる役割は薬草や肉の採取など地味な仕事に限定されてくる。無論長い目で見ればいつかは大型モンスターの討伐クエストも出るのかもしれないが、自分から進んで行こうと言う気持ちになるのはまずいないだろう。しかしミリアはそれを聞いた時「それもいいかな・・・」と思っていた。理由は単純。最近ドンドルマで受けているクエストも大型モンスターの討伐ばかりで懐もあったまっている。ならば、手伝うついでにそこに居ついてしまうのもいいかな。と考えたのだ。

「ま、誰もいかないんだろうしね。私、行くわ。その村の名前は？」

ミリアの返答を聞くとメイは一気に笑顔になった。

「ありがとう～！正直誰も受けてくれなくて困っていたのよ。ミリアならきっと受けてくれると思っていたわ。村の名前はラント村。位置は・・・そうねぇドンドルマからだと船で2日ってところじゃないかしら？」

「船？と言うことは海沿いにあるってこと？」

思わぬ交通手段にミリアは驚いていた。通常狩場などへの移動や交易の手段は竜車、もしくは気球が普通であり船など姿を見てこんな

もんか・・・と思う程度である。当然、乗ったことなどあるわけもない。
「えぇ。乗船手続きはこちらで済ませておいてあげるわ。出発は明日の朝になるけど・・・いいかしら？素材等はこちらで纏めて後日送るわ」
「ありがとう。それじゃぁね」
そういって会話を済ませるとミリアは「じゃ、私準備があるから」と酒場を後にした。こうしてミリアはまだ見ぬラント村に思いを馳せながら帰路につくのであった。

1話（後書き）

感想、ご指摘などありましたらよろしくお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8385y/

新天地~紡ぐのは絆の物語~

2011年11月24日23時55分発行